

第 2 回カーボンニュートラルやまがたアクションプラン改定検討ワーキングチーム「意見票」とりまとめ結果

議題 1 カーボンニュートラルやまがたアクションプラン改定の方向性について

氏名	①プラン改定の方向性	② キーアクションの候補	③キーワードやフレーズのアイデア
色摩慶子氏	<ul style="list-style-type: none"><li>改定の方向性としては、「アクションを分類して付け加える」になっていると思う。より進んだアクション例を出していくことでよいように思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>資源回収の推進： 日々出るゴミは一部で、あとは資源である意識付けをする</li><li>住まい（環境）を変える： リフォーム、家電の買い替え、見える化も併せる</li><li>エコドライブの実践 エコカーの導入： エコカー導入が理想だが経費もかかるので、エコドライブ、公共交通機関・自転車使用等も進められればよい</li></ul>	－
安達信樹氏	<ul style="list-style-type: none"><li>数々の意見に配慮された内容になっており、資料 4「改定の方向性」の内容に賛同。資料 4 の記載の中には若干資料 3 にない項目もあるが、庁内関係部局ヒアリングが反映されたものと理解。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>家族や友人と脱炭素社会について話そう： 何はともあれ県民の意識を高めることが重要</li><li>車に乗らない日を作ろう： 排出量の割合が大きい自動車は入れるべき</li><li>将来の太陽光発電の導入を考えてみよう： 将来導入でもいいから検討だけでもしてほしい</li><li>地産地消で地元へ貢献しよう： 波及効果が大きく、地元貢献というポジティブな印象も</li><li>もったいない買い方、使い方、捨て方はやめよう： 再資源化のための分別等は基本</li></ul>	－
高橋志穂氏	<ul style="list-style-type: none"><li>やまカボ・サポーターの「理想は「無理なく自然に、また、気づかないうちに対策ができている」状態。」という意見について、さまざまな媒体を通じ、効果的な意識づけを行えるよう展開して参りたいと思っていたので、この度、記載いただいた方向性でよろしいかと思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>原案の内容でよろしいかと思う</li></ul>	「ガソリンせつやく エコうんてん」 →このままでも分かりやすく伝わりやすいが、左記理想も加味すると、 『ガソリンたいせつ エコうんてん』などもいかがか。
佐藤江里子氏	<ul style="list-style-type: none"><li>身近で実行可能な事から推奨する事を考えると既存住宅についても検討しても良いと思う。誰でも新築できるわけではない。部分断熱、一部屋断熱についての効果を県民に教えてほしい。</li><li>浴室・洗面所などヒートショック対策となる箇所だけでも断熱したくなる補助があると良い。</li><li>また、最近よく住宅の照明器具の LED 化について相談される。今後、LED 照明しか購入できなくなるので皆さん対応を検討している。まずは身近で取り組みやすいことに補助が必要と思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>省エネ家電や LED 化への取組</li><li>エコドライブの実践</li><li>節電</li><li>見える化</li></ul>	－
赤川健一氏	<ul style="list-style-type: none"><li>経済的メリットの明確化とデータ提示の徹底：再エネ設備導入や高効率設備への更新について、雪国山形での費用対効果を客観的なデータで示すことで、導入へのハードルが下がることを期待。</li><li>リフォーム・断熱改修の推進：新築だけでなく既存住宅の断熱リフォームの効果を示す方針は、山形県の住宅ストック全体での CO2 削減を目指すというメッセージになる。</li><li>キーアクションの選定について：「身近で」「波及効果があり」「効果量が大きく」「実行可能で」「魅力的なもの」というポイントも全面に打ち出した方が良いのでは。</li><li>見える化と詳細診断の連携：関心を持った県民や事業者が次のステップに進むために、より詳細な省エネ・再エネ導入診断（例：家庭の電気代の内訳や、推奨される設備投資額と回収年を示すツール等）へ繋げる仕組みも提示できないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>再生可能エネルギー電力への切替： CO2 排出係数の低い、又は 100%の電力プランへ</li><li>自家消費型再エネ設備導入： 太陽光・蓄電池・熱利用等と高効率給湯器への更新</li><li>高効率設備への更新と住宅の断熱改修： 省エネ家電・LED・エコキュート等</li><li>CO2 排出量・エネルギー使用量の「見える化」の実施と詳細診断： デカボ MY スコア、省エネ診断活用</li></ul>	「や・ま・が・た」アクション <div>や</div> やさしいでんきに やり替える！ （再エネ電力切替） <div>ま</div> まずは CO2 まるごと「見える化」！ （見える化） <div>が</div> がまんゼロの高断熱に がっちり投資！ （断熱改修・高効率化） <div>た</div> たてもの屋根に たっぷり再エネ！ （再エネ設備導入）
加藤瑤子氏	<ul style="list-style-type: none"><li>問題ないと考える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>原案の 4 アクションに賛成</li></ul>	－
浦田格氏	<ul style="list-style-type: none"><li>方向性はおおむねよろしいかと思う。</li><li>「5 産業・事業でのアクション」の「その他のアクション」「（2）森林吸収源対策」については、再造林をはじめ森林整備を積極的に進めることが重要と考える。</li><li>関連して「（3）カーボン・オフセット」については、森林の J-クレジット制度を市町村及び関係機関と連携して進めることが重要と考える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>エコカーの導入</li><li>太陽光発電の導入</li><li>エコキュートの導入 当方の分野としては木材の活用を推したい思いはあるが、三浦委員のご意見をお聞きし、効果量の大きいものに絞って PR するのがよいと思った。また、より具体的に示したほうがわかりやすいのではないかと思った</li></ul>	

氏名	①プラン改定の方向性	② キーアクションの候補	③キーワードやフレーズのアイデア																																																															
佐藤徹哉氏	<ul style="list-style-type: none"><li>各意見への対応は適切であり、方向性に反映されていると思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>子どもと一緒に考える：大事にしていきたいことと考えるが、キーアクションとするには弱いかな。</li></ul>	もがみがわの「わ」 わたしもぼくも環境～～ （学習 or 大使 or…）																																																															
三浦秀一氏	<ul style="list-style-type: none"><li>「2 アクションプランの基本的な考え方等」には、脱炭素アクションは、物価高騰下において、家庭、産業・事業における光熱費の負担を軽減する効果をもたらし、企業においてはGXによる成長を目指すものという、最新の動向を追記する必要がある。</li><li>家庭のアクションの省エネ（4）の「CO2排出量の「見える化」、CO2 だけでは実感がわからず、響かないので、「CO2排出量と対策による経済メリットの「見える化」とすべき。</li><li>家庭も産業・事業も、省エネにはデマンド・レスポンス（DR）も加えるべき。例としては、家庭はエコキュートの昼間沸き上げ、蓄電池、電気自動車等。</li><li>GX、DR は別途説明を入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>エコカーはエコドライブとは別にすべき：エコカーではなく電動車の導入とした方がよい。厳選するならエコドライブは外していいと思う</li><li>再エネ設備導入と再エネ電力切替は、取り組み方が大きく違うので、項目を分けた方がいい：再エネ設備は具体的に太陽光発電や薪・ペレットストーブ等、再エネ電力切替はCO2フリー電力への切替え等と例示するのがよい</li><li>建物の高断熱化、断熱リフォーム</li><li>高効率エアコン、高効率給湯器の導入</li><li>デマンド・レスポンス（DR）の取組み</li></ul>	ー																																																															
渡邊脩太氏	<ul style="list-style-type: none"><li>全体的な改定の方向性に異論はありません。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>地産地消：日常のベース（食材、製品、人材、資源、「エネルギー」も地元産で好循環）</li><li>見える化：アクションの入口（エネルギー消費量＝節約、CO2（メリットとセットで）＝行動変容）</li><li>再エネ設備の導入：効果が大きいアクション（入口からこまめでいってほしい行動）</li></ul> ※ 3つ程度にキーアクションを絞り込んだ方が伝えやすい	<ul style="list-style-type: none"><li>キーアクションの言葉とアクションを実施している県民の姿をイラスト等で提示する（視覚的にわかりやすい）。</li><li>フレーズも賛成の立場ですが、シンプルに「〇つのキーアクション」や「鍵となる〇つのアクション」でも良い。</li></ul>																																																															
工藤美乃氏	<ul style="list-style-type: none"><li>全体的な文言が具体的な形で誰でもわかるような用語が多くて、県民が理解しやすい内容になっていると思った。</li><li>家庭でのアクションと県の施策とで内容が被っている項目がいくつかあった。県の施策はより具体的に、例えば「省エネ家電が購入可能なお店一覧の掲示と次世代自動車に使用する電気の充電マップの作成」などのように変更すると、より明確化され、わかりやすいと考えた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>再エネの利用</li><li>自然に優しい活動参加</li><li>家庭の電気を節約</li><li>電気を使わないエコづくり</li></ul>	<div>つ</div> 「っぱなし」×使ったらすぐに消す キーワード： べにばな、べにちゃん、ラーメン、サクラマス																																																															
五味馨氏	<ul style="list-style-type: none"><li>おおむね適切に意見を取り入れていると思う。</li><li>キーアクション候補は提案した5つの基準（身近、波及効果、効果量、実行可能性、魅力）に照らすと、いずれの候補も多く住民・事業者にとっての身近さについては良い案かと思う。ただ見える化は（実行すれば身近になるが）あまりピンとこないかもしれない。</li><li>一方で排出削減への貢献（効果量）としてはエコカー、再エネは効果が大きそう。地元産も木材は適切に出来れば森林吸収にも期待できるかもしれない。一方で農産物・製品とエコドライブはやや不安（山形県内の排出削減には計上されないのでは）。</li><li>波及効果は地元産と見える化はありそう、再エネも地域資本で地元工務店が手がけるようなものであれば期待できる。</li><li>魅力についてはこれら候補を実行することでより快適・便利・豊か（エネルギー代金の節約を含む。）な生活、活発な経済活動が想像できるか、ということになる。地域の特徴が出るところだと思うが、例えばやまがた省エネ健康住宅のような分かりやすくアピールできるものがあると良いのではないかなと思う。エコカーは新型の自動車がかっこいい、というイメージを持ってもらえればうまくいくかもしれない。</li></ul> <div>→</div> <ul style="list-style-type: none"><li>参考に当方の印象で星取表をつくってみました。「合計」は◎=3点、○=2点、△=1点で集計したものです。この表の評価を採用してほしいという意味ではなく、こういった評価をして得点の高いものを抽出するという手順を提案するものです。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>エコカー</li><li>再エネ設備導入</li><li>地元産木材</li><li>（+）断熱改修</li></ul> <table><tr><th></th><th>身近</th><th>波及効果</th><th>効果量</th><th>実行可能性</th><th>魅力</th><th>合計</th></tr><tr><td>エコドライブ</td><td>◎</td><td>△</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>9</td></tr><tr><td>エコカー</td><td>○</td><td>△</td><td>◎</td><td>△</td><td>◎</td><td>10</td></tr><tr><td>見える化</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>△</td><td>8</td></tr><tr><td>再エネ設備導入</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>△</td><td>△</td><td>11</td></tr><tr><td>再エネ電力切り替え</td><td>○</td><td>△</td><td>◎</td><td>○</td><td>△</td><td>9</td></tr><tr><td>地元産農産物</td><td>◎</td><td>○</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>10</td></tr><tr><td>地元産木材</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>△</td><td>△</td><td>9</td></tr><tr><td>地元産製品</td><td>○</td><td>◎</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>8</td></tr></table>		身近	波及効果	効果量	実行可能性	魅力	合計	エコドライブ	◎	△	△	○	○	9	エコカー	○	△	◎	△	◎	10	見える化	△	○	○	○	△	8	再エネ設備導入	◎	◎	◎	△	△	11	再エネ電力切り替え	○	△	◎	○	△	9	地元産農産物	◎	○	△	○	○	10	地元産木材	○	◎	○	△	△	9	地元産製品	○	◎	△	△	△	8	ー
	身近	波及効果	効果量	実行可能性	魅力	合計																																																												
エコドライブ	◎	△	△	○	○	9																																																												
エコカー	○	△	◎	△	◎	10																																																												
見える化	△	○	○	○	△	8																																																												
再エネ設備導入	◎	◎	◎	△	△	11																																																												
再エネ電力切り替え	○	△	◎	○	△	9																																																												
地元産農産物	◎	○	△	○	○	10																																																												
地元産木材	○	◎	○	△	△	9																																																												
地元産製品	○	◎	△	△	△	8																																																												

議題2 その他（自由意見）

氏名	自由意見
色摩慶子氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>カーボンニュートラルは喫緊の課題。年齢層、生活スタイルも異なる県民が自主的に取り組むようになるには、非常にハードルが高いこと。やまカボサポーターより、特に気を付ける週を設定してはと意見があったが、すべてを全力で取り組むことは難しいので、期間を決めてそのアクションのキャンペーンをして、その結果、県民の意識や行動がかわっていく、といった道筋が考えられる。</li><li>環境に関して、県民の中でも意識が高い人、まったく興味がない人もいる。家庭、産業、公共分野のアクションを分類して明文化すると全体量が増え、文章量が多くなり「自分は対象でない」と、結果誰も読まなくなる可能性もある。県民一人ひとりが自主的に取り組むための基本になるものですので、イラストを活用する、取組みで初級編、上級編のアクションがある、簡易版の資料を作ることなどもよいかと思った。</li></ul></div></div>
安達信樹氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>C02 排出量実績値の掲載：アクションプラン改定版には直近年度までの C02 排出量実績値は掲載されるか。排出量の算定が完了するタイミングの問題もあり 2025 年度分は難しいと思われるが、初回の 5 年間経過後、排出量にどんな変化があったか気になる。</li><li>アクションプラン全文の量：現行のアクションプラン全文を改めて参照すると、やはりページ量、文章量が多く読むのが大変。気軽に手に取り読んでもらうにはどうしたらよいのか難しいところ。</li><li>アクションプラン中の「県の施策」：該当するページに適宜掲載されている「〇〇を推進する県の施策」の部分が読みづらい印象。県が行うことなのか県民・事業者が行うことなのか混乱するような気がする。</li><li>アクションプラン推進のハードル：新規技術開発が具現化されていない期間の、既存技術や既存燃料を効率活用するしか方法がない中でのアクションプラン推進は難しさを感じる。また、県民個人目線ではコスト負担が意思決定の基準であり、物価高騰の折、一層困難度が上がっている状況。そんな中の脱炭素推進は難易度が高いと感じる。</li></ul></div></div>
高橋志穂氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>お送りいただいた各種方向性の推進に向け、取り組んでいければと思う。</li></ul></div></div>
佐藤江里子氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>高気密高断熱住宅が当たり前になり、やまがた省エネ健康住宅の認定を求めるお客様が増えた。弊社で今年契約頂いたお客様の 9 割が申請。</li><li>やまがた省エネ健康住宅の家は施工する側にも喜ばれている。現場内が夏は涼しく、冬は暖かいから作業効率が良い。近年夏の熱中症対策が求められているが、快適な住宅を施工するのが一番熱中症対策になると思う。そうした観点からも健康住宅の普及促進をお願いしたい。補助金額を増やして頂けると一層ありがたい。また山形県産材の普及促進をするなら、健康住宅の補助金との併用を認めて頂きたい。</li><li>省エネについて他人事として捉えている方はまだまだ多い。まずは子供に発信し子供から大人へ理解を促すことで変わっていけると思うので、環境教育や環境学習を進めてほしい。</li><li>個人的に長井市の取組は素晴らしいと感じた。他市町村にもぜひ実践してほしいと強く思う。</li></ul></div></div>
赤川健一氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>再生可能エネルギー熱利用への重点支援の明記：山形県は家庭部門で灯油の使用が多いという課題がある。地元の森林資源を活用する木質バイオマス熱利用や、冬季の暖房・融雪にも有効な地中熱利用といった再生可能エネルギー熱利用への補助金や支援を、電力分野と同等以上に強く推進する方向性をプランに明記しても良いのではないかと。熱と電気の「エネルギーミックス」を推進することで、地域課題（林業振興、灯油依存脱却）の解決にも繋がる。</li><li>分散型再エネ導入を加速させる地域主体の仕組みへの支援：長井市では、学校への再エネ 100%電力供給や家庭の余剰電力活用（地産地消）など、地域新電力を活用した先進的な取組みを進めている。地域で発電した再エネを地域で消費する「再エネの地産地消」は、地域経済活性化と災害対応力向上に不可欠です。市町村による地域脱炭素の取組み（資料 4 の NEW 項目）を活用し、地域新電力の強化や、市民ファンド等による分散型再エネ設備の導入支援を、県の重点施策として後押しできないか。</li><li>脱炭素専門人材育成のための高等教育機関との連携強化：第 1 回 WT で指摘したとおり、アクションプランに掲げられた高度な省エネや再エネ導入を実現するには、それを担う専門人材の育成が不可欠。産業・事業でのアクションの対応方針として、技術的な相談・連携先窓口一覧の記載が検討されていますが、さらに一歩進め、県内の大学・専門機関と連携し、再エネ技術者や GX 推進人材、地域の合意形成を担う「気候エネルギー・マネージャー（地域コーディネーター）を育成・供給するための具体的なプログラムや奨励制度を検討できないでしょうか。</li><li>「山形版エネルギー・エージェンシー」による伴走支援：欧州では、小規模な自治体や事業者を専門家が長期的に支える非営利・中立的な「エネルギー・エージェンシー（中間支援組織）」が脱炭素ドミノの原動力となっている。特に、専門部署を持たない小規模自治体に専門職員を派遣し、計画策定から実施まで寄り添う「伴走支援」が効果を上げている。現在検討されている「相談窓口一覧の記載」を第一歩としつつ、将来的には県内の NPO や大学、地域新電力などが連携し、中立的な立場で実務を代行・支援する「山形版中間支援ネットワーク」を組織化できないか。</li></ul></div></div>
加藤瑤子氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>－</li></ul></div></div>
浦田格氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>色摩委員のご意見にあるように、広く県民に呼びかけるには、C02 削減は家計を助ける、〇〇円節約できる、というような示し方がよいと思う。子どもや若者は学校などで環境学習に取り組んでいて高い意識を持っている人も多いように感じるが、自らを顧みても、社会に出て日々の生活に直面すると環境への意識は後回しということもあると思うため。アクションの候補として高額な設備の導入を挙げたが、経済的に余裕のある人しか取組めないものになってはいけないので、補助や融資などもあわせて検討いただければ。</li></ul></div></div>
佐藤徹哉氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>多くの団体や機関の知恵を集めて、住みよい未来を創っていこうという取組みは大変意義があり大事にしていかななくてはならないもの。</li></ul></div></div>
三浦秀一氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>繰り返しになるが、補足事項の新アクション「まずは C02 排出量の「見える化」から」についても、「C02 排出量と対策による経済メリットの「見える化」とすべき。太陽光発電の費用対効果を山形県の実績から出していくことが重要。</li><li>公共分野のアクション：高齢者や若年層、観光客等、誰もが自由に移動可能となる公共交通、ライドシェア、シェアサイクル等の整備は、気候変動と交通政策の同時解決を図るためにも重要。</li></ul></div></div>
渡邊脩太氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>新アクション「まずは C02 排出量の「見える化」から」について：デカボ MY スコアを活用し、各アクションの入口として位置付けるためには、下記をセットで提示（周知）する必要があると思う。<div><div></div><div><div>① 県民一人あたりの年間排出量の提示（家庭部門）</div><div>② 目標に対する県民一人あたりの「目指すべき」年間排出量の提示 ※①と②はやまがたカーボンニュートラルガイドブック 2025 の 4 ページに記載あり。</div><div>③ デカボ MY スコアで自分の年間排出量を確認、自分事にする</div><div>④ 各アクションの（金額的なものを含めた）メリットを提示する。 ※「節約になるならしたい」等の行動変容を喚起する。</div></div></div></li></ul></div></div>
工藤美乃氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>－</li></ul></div></div>
五味馨氏	<div><div></div><div><ul style="list-style-type: none"><li>寒冷地で森林を多く有するという地域の特徴に、県民性も加え、かつ、脱炭素の取組がよりよい暮らしに繋がることを示すことで、プランあるいは具体的な取組が多くの県民の方々に知られ、そして出来れば愛されるようなものとなることを期待する。</li></ul></div></div>